

2 仲間づくり

児童生徒同士のかかわりを深める工夫に努める

児童生徒が学校の中で一番気になることは、学級の間人間関係です。児童生徒が「育ち合う」「認め合う」「励まし合う」「高め合う」関係になるように、一人一人に目を向けながら学級づくりに努めることが大切です。

< 例えば >

・誰もが自分の意見や考えを言えるように活動を仕組んでいますか。

個人の考えが安心して言える雰囲気をつくること、教師がしっかり一人一人の発言を大事に聞くことが学級集団づくりの第一歩です。隣の人との意見交換、グループや班での意見交換とつないでいけば、一人一人の考えが学級に広がるようになります。また、教師が児童生徒の意見にかかわり合いながら、意見や考えの出し方・聞き方なども指導していくと、少しずつ自分の意見や考えを言える学級の雰囲気づくりができてきます。



・児童生徒一人一人の長所や得意分野等を学級の中で生かしましょう。

児童生徒が学校生活の中で一番多くの時間を過ごすのが学級です。特に、授業や朝・帰りの会で一人一人の長所や得意分野を生かす工夫をしたいものです。例えば、音読の上手な児童生徒を「音読プロ」として、音読を録音して授業に活用したり、「リコーダープロ」に一つのグループの指導を任せたり、「掃除プロ」には掃除の仕方を紹介させたり、一人一人の長所・得意分野に光を当て、自信をさらにつけさせることをどんどんしていきましょう。

・普段から、児童生徒に疑問を投げかけ、考えを出し合って解決させるようにしていますか。

一人一人に考える力をつけるには、疑問を投げかけ、解決に向けて考える時間をまず与えることです。そしてみんなで意見や考えを出し合いながら、教師が「本当にそれで解決できるの？」といった問いかけをして、自分たちで問題を解決させるようにしていきましょう。

・児童生徒が納得するまで話し合っていますか。

自分の思い通りにいかないとき席を立って教室を出たり、友だちにいたずらをしたりする児童生徒に注意できる、学級の間人間関係づくりに努める必要があります。そのためには、まずは教師がよいことはしっかりほめて、いけないことについては、個別になぜ悪いのか教えたり、集団を高めるには何が必要かを丁寧に伝えて、児童生徒が納得いくまで話し合ったりすることが大切です。十分に話し合い、児童生徒が納得することで、児童生徒とのかかわりがより親密になります。



児童生徒の自治的活動を広げる

どの児童生徒も楽しく落ちついて学級生活を送ることができるよう、学級全員できまりをつくったり、児童生徒の自主的な活動を支援したりすることが大切です。

< 例えは >

- ・「絶対やめよう」「これだけはやめよう」等、学級のきまりをつくりましょう。



学級でみんなが気持ちよく生活できるように、担任と児童生徒でしっかり話し合いをして学級のきまりをつくるのが大事です。そして、みんながよく見える所に掲示し、自分たちのきまりを意識しながら行動させることによって、学級全体の自律を図ることができます。

みんなが守っていこうとする気持ちを盛り上げるように、教師が働きかけたり児童生徒の振り返る時間をもったりすることが、児童生徒の主体性を育てる一つの方法です。

- ・児童生徒が企画・準備・実行する活動を月1回または学期に1回は考えていますか。
「秋の学級お楽しみ会」、「寒い冬に打ち勝とう」等で自分たちが考えたレクリエーションや学級行事を企画させることが、学級の活性化に効果的です。企画・準備・当日の運営と大変ですが、自分たちもやればできるという自信をつけさせるいい機会です。きまりを児童生徒に考えせたり内容についてのアドバイスをしたりするのは教師の役割です。

- ・学級で話し合われたことが、みんなのよく見える所に掲示してありますか。
学級で提案されたこと、自分たちでつくったきまりは、学級全員がよく見える場所に掲示しておきましょう。提案が達成できたり、きまりがほぼ守られたときは、学級の歴史として掲示しておくことも、学級全体の意識の高まりにつながります。

児童生徒の情操や意欲を育てる教室環境づくりに努める

きちんと整頓された教室、美しく整備された教室、掲示物に工夫がある教室は、児童生徒の情操、思慮深さを育て、意欲や態度といった内面的な資質も育てていきます。日頃から児童生徒の様子を観察しながら、教室環境づくりに努めることが大切です。

< 例えは >

- ・危険箇所の早期発見、採光や照明の管理に十分配慮しましょう。

教師が教室の美化や換気・採光・照明、机やいすの高さ、釘や帽子かけ、電気コンセントなどの状況に気を配ることは、病気・不慮の事故発生の予防のために大切です。また、教室における健康・安全管理は、児童生徒の健康・安全を守っていくというだけではありません。児童生徒が「自分や友だちの命・身体を大事にしていこう」とする態度を身につけることにつながります。



- ・学校から帰る前に、教室の点検をして帰りましょう。

放課後、教室に入ると感動を受けることがあります。生き生きした草花や小動物、整然とした掲示、机の整頓、教卓の周りの整頓、それらがきちんと整備されている教室は、清潔感とともに日々の学習での生き生きとした児童生徒の様子を感じることができます。

また、一人一人の児童生徒の指導を振り返りながら教室経営をする教師の気遣いもうかがうことができます。

・児童生徒の動きや存在がわかる掲示や展示を行っていますか。

図画工作や美術で完成する前のスケッチの段階の児童生徒の絵を掲示して、学習のねらいとしているところを示したり、生活科のお店探検メモで、「品物の名前がよく分かるようにスーパーの商品が並べてありました。」というような知的な気付きに、「お店の工夫をよく見つけたね。」等の朱書きを加え掲示したりすることで、児童生徒のものの見方、考え方が広がったり深まったりします。児童生徒に何を伝え、何を学ばせたいのか、教師が意図を持って掲示や展示を工夫していきましょう。

・教材教具が整った教室環境づくりに努めましょう。

教材教具が、学習時間はもちろん、休憩時間などでも自由に活用できるようになっていると、児童生徒の学習意欲が増し、活動が活発になってきます。

例えば、教材教具の位置、整理の仕方、使い道や利用の仕方を児童生徒に説明しておいたり、コーナーを設けて整理しやすくしたりすることで、誰もが自由に利用できるようになります。また、カリキュラムに対応して、興味・関心や学習意欲を高める教材教具をそろえたりすることで、学習活動が活発になります。さらに、児童生徒のアイデアを取り入れた環境づくりをすると、自治的な意識の高揚にもつながっていきます。



「仕事場や現場を見れば、その人の腕がわかるというのはほんとうだよ。

それは仕事用に現場が身構えているかどうかだからや。」

小川三夫（「不揃いの木を組む」 草思社）

小川三夫さんは宮大工の棟梁であり、独特の教育論で弟子を育てている。小川さんがやかましく言うのは整理整頓。見た目にきれいにしてあることではない。仕事の段取りを考えた材の組み方がしてあるかどうかということだ。それは仕事を最後まで見通しているのかということであり、頭の中の整理を問うているものである。

教室の児童生徒の作品や掲示物、さらには教師や子どもたちの机の配置など担任の先生によって随分ようすが違う。これら教室環境は担当教師の腕前や心を感じさせる。教室はもちろん学校全体から、新しい教育課程へ向けた先生方の意欲や心が一層伝わってくることを期待している。

東部教育事務所長 木下法広(Tobu通信 平成14年2月4日より)

